

自治基本条例に基づき、もつと情報公開を！

直江津図書館・社会教育館整備問題で橋爪、上野議員厳しい追及

24日に市長が追加提案した一般会計補正予算の直江津図書館・社会教育館整備事業をめぐって厳しい議論が続いています。

同事業は直江津駅前のホテルセブンチアリーイカヤの新館の1階から3階部分のほとんどを市が購入し、図書館、社会教育館にしようというもの。今回の補正予算では総額4億8430万円がけいじょうされました。このうち建物・用地の購入費として盛り込んだのは

4億5000万円です。

党議員団からは、24日の総括質疑で橋爪議員が、25日文教経済常任委員会では上野議員が質疑、質問をおこないました。両議員とも直江津図書館等の整備の必要性を認めつつも、公正で透明性のある事業推進となっていないかを自治基本条例に沿ってチェックしていく必要があるとして、厳しい追及をくりひろげました。その中で、新会社直江津駅前ホテルの設立につ

いて市長が知ったのは、「14日の新聞報道だった」「市長が契約の期限延長を求めて直接、交渉に行かなかつたのは都合がつかかなかつたから」などといった信じられない答えが返ってきています。

今回の事業は改装経費などを含めると総額14億円もの税金を投入する事業です。情報は最大限公開し、パブリックコメントなど市民参画の制度も十分活用して進めてほしいものです。

上越市自治基本条例18条2 市長等は、政策の立案、実施、評価及び見直しに至るまでの過程及び内容を市民に分かりやすく説明しなければならない。

上越市自治基本条例22条2 市長等は、前項の手続（パブリックコメント）により提出された市民の意見を尊重し、意思決定を行うとともに、提出された意見に対する市長等の考え方を公表しなければならない。



23日、24日と日本共産党議員団の4人が一般質問で登壇しました。このうち、平良木、上野両議員は市議として初の一般質問でした。私学助成の充実、施設利用料の軽減などを訴えた両議員の質問には、「堂々とした論陣は新人とは思えない」などの感想が寄せられました。樋口、橋爪議員も妊婦健診、放課後児童クラブなどについての市民要求実現を求めて奮闘しました。

上越医師会役員と初めて懇談

後期高齢者医療制度で認識深める

日本共産党議員団はこのほど、上越医師会館を訪ね、医師会役員と後期高齢者医療制度などにつき懇談しました。

同医師会からは羽尾副会長、丸山総務部担当理事などが出席、互いに意見を交換しました。

両氏は、「高齢者担当医制度など患者に負担を押しつける制度にはくみ

したくない」「延命治療をどうするかは、どの医者も患者の家族と話し合っていること。相談すればお金（終末期相談支援料）になるというのは抵抗感がある。とても使う気になれない」などのべました。懇談では率直に意見交換をおこなった。勉強になりました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.138 2008年6月29日

- | | | | |
|-----|--------|----------|----------|
| 連絡先 | 橋爪 法一 | 548-3628 | (吉川区代石) |
| | 樋口 良子 | 544-6802 | (中門前3) |
| | 上野 公悦 | 530-2203 | (頸城区中柳町) |
| | 平良木 哲也 | 525-9096 | (上中田) |



ホタルブクロ

平良木議員一般質問 私学に光を・子ども医療費中学まで無料に



平良木議員は、議員になって初めての一般質問に、出身職場の願いに応える「私学助成問題」と「子ども医療費問題」を取り上げました。

【平良木議員】 中学卒業者数が20年前の半分に減少したうえ、学費が公立高校の約3倍である。学校向け補助と保護者への学費補助の抜本的改善が重要だが、今後どんな姿勢で臨むか。

【教育長】 運営費補助金は1校当たり450万円、保護者へも、税制改正に伴って支援要綱を改正するなど必要な措置を講じている。市教委としても、地域教育で重要な役割を担う両校

に、出来得る限りの支援に努めている。

【平良木議員】 学校向けは最高七百万円であった。いつそこまで戻すのか。

【市長】 財政難のもと、その保障はできないが、少なくとも減額はしない。

【平良木議員】 保護者向けは13区で激変した。通学もたいへん。改善を。

【教育長】 合併によって、制度を統一した。全体として改善に努力する。

【平良木議員】 施設設備助成は、これまで通り3分の1補助をするか。また、耐震化工事では、市独自の補助を。

【教育長】 これまで通り制度に合わせて補助する。耐震化は小中学校で一杯。すぐ返答はできない。

【平良木議員】 多様な子育て支援策の中でも子ども医療費助成の拡充は重要。中学卒業まで医療費を無料に。

【教育長】 無料化対象学年1学年引き上げに約5千万円必要。現状では難しいが、総合的に考え推進したい。同時に県に対し拡充を働きかけていく。

減免制度の拡充を。

【市長】 市全体の公平性の確保を最優先に、施設を利用する人としらない人との負担の適正化を考え、一律にした。

減免も公益性を判断基準にした。子どもの使用は半額にしている。

【上野議員】 敬老会の招待対象年齢が引き上げられて75歳以上になった。一体5歳の引き上げでどれだけ経費が浮くというのか。せめて参加要件だけでも元に戻してほしい、敬老祝い金制度も復活してほしい。

【市長】 対象年齢は県内他市の大半に合わせた。祝い金も合併協議で廃止した。祝い金復活で6千万円かかる。

【上野議員】 地域事業は各区の十年のまちづくりの羅針盤。市長の基本認識と今後の取り扱いについて問う。

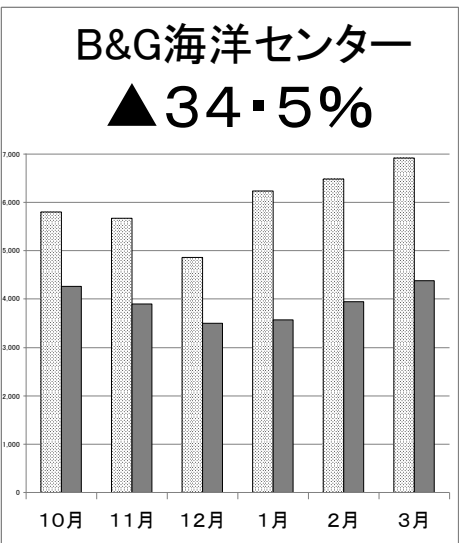
【市長】 地域事業は新しい上越市の一体性の速やかな確立及び住民の福祉の向上・市全体の均衡ある発展のための重要な事業。新市建設計画の見直しや財政の大幅変化の際に見直す。

【上野議員】 市民の声を直接聞くシス

上野議員一般質問 託された区民の願い実現へ

上野議員は冒頭、「私の身分は合併後の上越市の市会議員であると同時に頸城区民の代表」と述べ、たくさんの方の声を代表し、合併後のサービスの低下や制度の後退に対する不満や今後のまちづくりへの不安、そして何かしてほしいという期待を、グラフを示しながら取り上げました。

【上野議員】 合併後の願いの1つは施設利用料の問題。この間、利用率は激減している。せめて子育てサークルや子どもたちの利用は無料に。また、文化・スポーツ団体の利用についても



【平良木議員】 国の制度で窓口負担が軽減。本市の負担減はいくらか。

【健康福祉部長】 5千万円である。

【平良木議員】 それを使えば自動的に1歳引き上げられるのではないか。

【健康福祉部長】 総合政策的に考え、単純ではない。合併時は3歳までだったのを3年間で6歳までにした。

【平良木議員】 国の財政支出で、新たな負担なしに中学卒業まで無料化ができる。市長として、どんな形で国への働きかけを行ってきたのか。

【市長】 県・北陸信越・全国の市長会を通じて毎年要望しているほか、直接の陳情も。引き続き力を入れる。

【平良木議員】 財政厳しくとも、市民の健康維持はなにより大切。思い切った姿勢で子育て支援を進める姿勢を積極的に示すべきである。

【市長】 ニーズに応えられるよう進めていく覚悟である。財源確保はいろいろあるが、医療費は最も重要なものであり、最大限の努力をしていきたい。決意を表明する。

テムが大事。市民対話事業の改善を。

【市長】 市内で「対話集会」「現場でトーク」を実施。住民の生の声を聞き、地域を愛する熱い思いを肌で感じた。職員にも現場行政を説き、市民ニーズを感じるよう指導している。さらに地域に向く機会を持ちたい。

【上野議員】 地域協議会の形骸化が心配。財源を伴った一定の権限強化を。

【市長】 地域協議会は、約8割の意見の実行を図っている。協議員の意欲高めるよう、活動成果の広報や、会の運営方法を改善することが肝要と考える。研修や視察の機会を設けるなどの取り組みを続けたい。

